

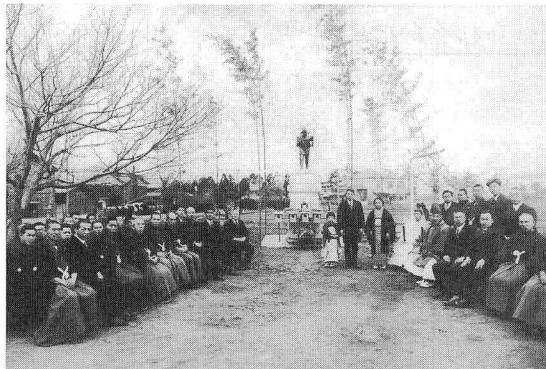
## ② 二宮金次郎像から歴史を考える

～身近な平和教材を生かして～  
《小学校中・高学年》



能美市内の小学校の二宮金次郎像（写真①）

串小学校の初代銅像の除幕式（写真②）



戦後60周年を迎える、戦争体験者からの聞き取りも難しくなってきている。

しかし、身の回りを見回すと、戦争に関するものは多く残っている。

二宮金次郎像もその一つである。二宮金次郎像が戦争に利用された歴史を探ることによって、戦争と平和について考えさせたい。

金次郎も兵隊に／応召される銅像（写真③）



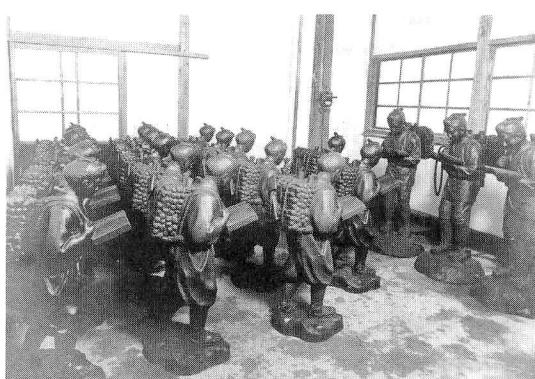
1941年（昭和16年）12月  
壮行式・石川郡旭国民学校

金次郎の陶像の鍍金（メッキ）作業（写真④）



1942年（昭和17年頃） 八幡の陶像製作所にて

出荷を待つ二宮金次郎陶像（写真⑤）



※写真については所有者に掲載許可を得ています。

## 「二宮金次郎像から歴史を考える授業」の授業案

### 1. ねらい

- (1) 自分の身の回りに戦争に関係するものが多く残っていることを知り、興味を持って自ら調べようとする。
- (2) 二宮金次郎像が戦争に利用されていたことに気づく。銅像は、物資の不足により抛出されたことを知る。
- (3) 二宮金次郎像の他にも校歌や忠魂碑などが戦争に関係していることを知る。

### 2. 準備 二宮金次郎の像がないところは写真を準備する。資料を人数分印刷する。

### 3. 展開例

	学習活動・児童の意識や活動の流れ	支援
第 1 時	<p>1. 二宮金次郎像の観察を行う。            *学校にある場合は二宮金次郎像の前で授業を行う。</p> <p>二宮金次郎を知っていますか。 (写真の場合)</p> <p>2. 二宮金次郎像についての疑問を出し合う。</p> <p>二宮金次郎像について疑問に思うことを出し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつから立っているのかな。</li> <li>・なぜ、学校に立っているのかな。</li> <li>・二宮尊徳って誰かな。 •いつの時代の人かな。</li> <li>・なぜ、こんな格好で本を読んでいるのかな。</li> </ul> <p>3. 調べる計画を立てる。</p> <p>次の時間までに調べてみよう。どうやったら調べられるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいちゃんに聞いてみよう。</li> <li>・インターネットで調べよう。</li> <li>・地域のお年寄りに聞いてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作られた年や寄贈した方がわかる記録などを見つける。</li> <li>・銅像かどうかさわってみる。</li> </ul> <p>写真①</p>
第 2 時	<p>1. 調べたことを発表して交流する。</p> <p>わかったことを報告し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤勉な様子が当時の学校教育に合っていたんだね。</li> <li>・前は銅像だったけど、戦争中に陶器の像に代わったんだって。</li> </ul> <p>2. 感想を交流し深める。</p> <p>3. 他にも戦争につながるものはないか話し合う。</p> <p>学校には他にも戦争に関係するものが残っています。            どんなものがあるかな。ぜひ、調べてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の歴史を調べてみてもいいね。</li> <li>・大きなお墓みたいなものがあるよ。</li> <li>・卒業写真に戦争中のものがあるよ。</li> <li>・校歌に消えた3番がある学校もあるよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師側からなぜ二宮金次郎がたてられたのかという＜資料1＞を出し、補強説明する。</li> <li>・建てられた当時の大がかりな除幕式の写真資料も提示する。写真②</li> <li>・供出を促した＜資料2＞写真③と出荷を待つ陶像の写真④⑤を提示し補強説明する。</li> <li>・感想用紙を準備し、時間をとって考えを深めさせる。</li> <li>・校歌の3番、忠魂碑など子どもから出なければヒント＜資料3＞を出し、次の活動に広げる。</li> </ul>

## <資料1>

### なぜ、二宮金次郎の像が学校にあるの？

戦前（1945年の終戦より前）の小学校や中学校には、「修身」という授業がありました。「修身」とは、国が正しいあこないとは何かを決めて、それを広く国民に身につけさせようとしてできた授業です。修身の国定教科書（國の方針に従って國が作る教科書）ができたのは、1904年で、このとき、少年時代の金次郎のことが小学校用の教科書にとりあげられました。二宮金次郎（尊徳）は江戸時代に、ききんで苦しむ多くの農民を助けた人でした。弟子がその様子を記録し本にして、明治天皇に渡したことがきっかけで教科書にのることになったそうです。それから、1945年に太平洋戦争が終わるときまで、40年近く教科書に登場し続けました。はたらきもので、勉強熱心だった金次郎少年は、子どもたちのお手本と考えられていました。

そして、金次郎の像は、1920年代後半から、1940年にかけて全国の小学校でブームとなり、設置されるようになりました。ちょうどそのころ、日本は戦争に向かっていた時代でした。学校で戦争に向かう子どもたちを育てようとしていた国にとっては、勤勉な金次郎少年の話は、利用しやすく都合のいい教材だったかもしれません。また、銅像を造って売りたいと考えていた業者の思惑とも一致して、広まつたらしいです。なんと1932年に金沢で開かれた博覧会での宣伝が全国的普及のきっかけになったそうです。それで、石川県の加賀地方には、今でも小学校に金次郎の像がたくさん残っているのだそうです。

## <資料2>

### 戦争の鉄砲の弾などにするために…

石川県に今ある金次郎像の中には、石や九谷焼で作られたものもあります。もともとは、銅製のものが多くたったそうです。では、なぜ銅製のものが減ったかと言うと、太平洋戦争がはじまる1941年ごろになると、鉄などの金属の物資が足りなくなつたので、金属製のものは国家に渡さなければなくなつたのです。なべやお寺の鐘までも出しました。

銅でできた金次郎の像も鉄砲の弾などにするために、すべての小学校から出されました。その代わりに、九谷焼の業者の思いもあって石や九谷焼で作られたものが広がったそうです。

## <資料3>

### 消えた！校歌の3番！！

石川県のある小学校の校歌は、戦前の1927年（昭和2年）に作られ、金次郎の像が全国的に造られた1936年（昭和11年）に、国に認可されたものです。そして、戦後、内容が時勢に合わなくなつたという理由でPTAと教職員が話し合い、3番を歌わなくなつたという歴史があります。身边に残る戦争の歴史です。3番は、次のような歌詞でした。みなさんの学校でも調べてみて下さい。

文化のうしお早しとて みだりに新を追わざらん 君と国とにつくすべく  
(文化の変化が早くても みだりに新しいことを追わないで 天皇と国とにつくすべく)  
やまと心をみがきなん やまと心をみがきなん  
(日本人の心をみがこう 大和魂をみがこう) ※( )の中は意味

【参考文献】「おもしろくてやくにたつ子どもの伝記・18／二宮金次郎」ポプラ社 杉浦純子 編

【資料監修】 津田 修 (加賀地方史研究会会員 小松市立博物館専門委員)